

令和6年度第5回旭川市こども計画策定部会 議事概要

○開催日時

令和7年3月7日（金） 18:28～19:50

○開催場所

旭川市総合庁舎7階 大会議室B

○出席委員（8名）

荒木関委員、片桐委員、楠井委員、小山委員、佐々木純江委員、佐々木千夏委員、
中嶋委員、長島委員

○事務局（7名）

向井子育て支援部長

子育て支援課 香川課長、高橋主幹、川口主査、浅沼主査

こども育成課 熊谷課長、清原係長

○傍聴者（0名）

○概要

1 開会

2 協議事項

（1）旭川市こども計画（案）について

（A委員）

まず、「旭川市こども計画（案）」に対する意見提出手続の結果について、事務局から説明願う。

（事務局）

「旭川市こども計画（案）」に対する意見提出手続の結果について、資料に基づき事務局説明。

（A委員）

このことについて、委員の皆様から質問等はあるか。

（B委員）

資料1－3の寄せられた意見と市の考え方について、市の回答が、意見が届いたのか届いてないのかが分からないような回答であると思う。パブコメで意見を寄せてくれる方は、意識が高く、回答もしっかり確認していると思うので、もう一步踏み込んだ回答をすると双方向でのやりとりになり、施策としても方向性が定まりやすくなると思う。もっと前向きな回答にしたらよいと思う。

（事務局）

回答の表現方法については、検討したい。

（B委員）

こどもの意見が非常に興味深い。これに対してはどのような回答をする予定なのか。

(事務局)

一つ一つの意見には返せないが、いただいた意見の傾向についてまとめた上で、まとめたものについて、回答することを考えている。今回、こども達から自由な意見をいただいた。今後も様々自由に意見を言えるような形についてフィードバックしていきたい。

(B委員)

こどもの意見をまとめずにそのまま出すのは一案であると思う。

(事務局)

小中学校では紙での配布になってしまうため、印刷枚数の問題や教室に掲示するとした場合はスペースの問題がある。そういった部分の考慮は必要であると考え、まとめ方も工夫がいると考えている。

(B委員)

市役所にボードを作って、こども達の意見を付箋に書いて貼るのは結構よいと思う。こどもの生の声をそのまま受け取ってもらえていると感じると思う。また、他の人がどんなことを考えているか、新たな発見もあると思う。

(事務局)

今回が初めての試みであるので、返し方もアイデアを出しながら検討したい。

(B委員)

意見を出した甲斐があったと思えるように、施策だけでなく過程が見えるほうがよいと思う。市の一言コメントが書いてあってもよいと思う。大学生協が、学生からの質問をかなり丁寧に一つずつコメントしたということでかなり話題になっていた。ダイレクトに返事を返すというアクションがあると、こどもたちも参画しようという気持ちにつながると思う。

(事務局)

子育て支援部で返せるものだけではないため、他の部局とも相談をしながら、返し方や見せ方については検討したいと思う。今回初めての試みであったが、こども達からたくさん自由な意見を頂いた。こどもたちが意見を言ってもよいと思えるきっかけになればよいと思う。小さなことからでも意見を出したら、聞いてもらえるんだということが一つであれば、今後の意見にもつながると思う。

(A委員)

次に、旭川市こども計画の最終案について、事務局から説明願う。

(事務局)

旭川市こども計画の最終案について、資料に基づき事務局説明。

(A委員)

このことについて、委員の皆様から質問等はあるか。

(C委員)

資料2-1の推進指標について、こどもの誕生から幼児期までのところで、子育てに関して、日頃悩んでいること、気になることについて「発育・発達に関すること」と答えた人の割合について目標を減少としているが、このことについて悩む人はこれからも増えていくし、減らないと思う。それが普通ではないのかと思う。

(事務局)

これから計画の推進に当たって、指標を掲げ、これを達成するために取り組んでいく様々な取組の中で効果が表れて、5年後は減ることを目標にしているという意味合いのものである。具体的に何をということは計画には示されていないが、毎年、実際の取組を評価していくことを予定している。

(C委員)

評価すべき施策がない中で、この指標がいきなり出てくると非常に違和感がある。

(B委員)

親がこどもの発達に関して悩むことは悪いことではないという見方もあると思う。

こどもに無関心な親が問題になっている現状で言うと、こどもについて心配することが必ずしも減らすべき状況ではないと思う。

(C委員)

気になっていることが良くないようなマイナスのニュアンスがあるという印象を受ける。気になることは当たり前のことであるのに、これを減らすというだけの指標に見えてくると、市はこれが悪いと思っているという印象を受けてしまう。

(事務局)

この内容だけでは伝え切れていない部分もあるため、各設問の意図やそれに対する取組の姿勢等を深めた上で、推進指標について、補足を付けることを検討したい。

(D委員)

こども版はこれで確定か。せっかく配付するのであれば旭川はデザイン都市であるので、多くの人に見てもらえるように、デザインも工夫してはどうか。

(事務局)

今後、こどもたちと集まって話をする機会を作っていきたいと考えており、こどもの力を借りて表現方法やデザインについて考えてもらうことやこどもの書いた絵を載せるなどについても検討していきたい。

計画について浸透させていきたいが、学年によって理解度が違う。年代ごとのワーキンググループを作って、リーフレットを作成することや考え方について意見を聞くなど、啓発方法についても検討したい。

(D委員)

こども版については、4月に出さなくてもよいと思う。こども向けは丁寧に作っていただきたい。

(事務局)

計画及び概要版については予定どおり4月策定とし、こども版については、4月以降引き続き、内容やデザイン等について検討したい。

(A委員)

次に、旭川市こども計画策定部会審議結果報告書についてである。こども計画策定部会については、第1回から本日までの審議をもって部会としての審議を終了し、その旨を次回の審議会で報告することとする。報告内容は主に答申となるものであるが、その内容について協議したい。事務局でこれまでの部会の開催経過及び議論の要点等をまとめたものを作成しているので、説明願う。

(事務局)

旭川市こども計画策定部会審議結果報告案について、資料に基づき事務局説明。

(A委員)

このことについて、委員の皆様から質問等はあるか。

(D委員)

計画ができた後、実行してチェックするというのはどのようにするのが良いか。審議会でチェックするのが良いと思うが、施策についてどのように提案して反映させていくのかは、こういったイメージでやればよいのか思いつかない。

(事務局)

こちらで自己評価し、それを取りまとめて審議会に提示した中で、どうだったかという振り返りの機会を設けたいと思っている。

(C委員)

市民という言葉を入れて、審議会の中だけではなく、市民の声を反映するように答申するのはどうか。答申で具体的なことは言えないと思う。部会が市に求めることが反映されるような包括的な書き方になればよいと思う。市民の声を取り入れるような仕組みを考える等の表現でよいと思う。

(B委員)

関係者ではない人の意見を取り入れていく方向にしてはどうか。

(D委員)

広く意見が反映されて、それを市民が実感できるような施策であるというところが大事であると思う。何らかの形でそれが反映されているようなシステムになっていくことが非常に大事であると思う。そういった方向性を示すのが良いと思う。あえてPDCAサイクルという言葉を使わなくてもよいと思う。

(E委員)

各論の中にPDCAサイクルの文言を入れなくてもよいと思う。

(A委員)

ここで言うPDCAサイクルが分かりにくい。計画の策定が「P」であるならば、個別の施策を実行するところにもPDCAがある。どちらのことを言っているのか、この書き方だと分かりにくい。

(B委員)

良くなったかの評価はこどもがすべきであると思う。支えている側も含めてであるが、審議会で評価するのではなく、こどもや若者の意見を反映できる仕組みを作るのが審議会の役割であると思う。それをフラットに書いたほうが分かりやすいと思う。

(C委員)

PDCAサイクルを確立してほしいわけではなく、しっかりと計画の進捗について検証しながら着実に進めてほしい、そのために関係機関との連携や市民の声を反映させるようなものにしてほしいという話であると思うので、PDCAサイクルの確立という表現ではなく、定期的な見直しや進捗状況の確実な確認のような表現でもよいと思う。

(A委員)

こども達の声や市民の声を反映させていくことが今までと違うところであるので、PDCAサイクルという言葉を使うのかという議論はあるが、しっかりと毎年の仕組みの

中で、こども達の声や市民の声を聞いて施策を考える中で、実際どうだったかを毎年毎年検証していく、そこを表現できるとよいと思う。

(D委員)

書き方としては、PDCAでそれぞれ書いてはどうか。仕組みの充実はP、2番目は周知の強化と書いているが、実行していることに対してどのように周知しているか、3番目にどのようにチェックをするのか、また、それをどのように反映させるのかというような書き方を4段階で書いていけばよいのではないかな。PDCAサイクルの確立ではなくて、そのようなことをやってくださいという表現でよいのではないかな。

(A委員)

さまざま意見があったところであるが、報告書については、皆さんの意見を基に修正したいと思う。内容については、委員長に一任願えるか。(委員了承)

全体を通して、御意見等はあるか。

なければ、本日の協議事項については、以上となるが、事務局から連絡事項等はあるか。

(事務局)

策定部会は今回が最後となる。最後に子育て支援部長から一言ご挨拶申し上げます。

(子育て支援部長挨拶)

(A委員)

以上、閉会とする。

3 閉会